



とがみ

「やさしく かしこく たくましく」

山形市立滝山小学校

第7号
令和4年7月19日

発行：校長 吉田健志
山形市小立4-13-86

令和4年度 児童会目標
一人一人が自分から考えて行動し、
思いやりあふれる児童会を創ろう。



この今年度の児童会目標のもと、今月は「相手の気持ちを考えて、あいさつややさしい言葉づかいをしよう」という目標に取り組んできました。具体的には、①あいさつ返し、②ふわふわ言葉を使う、③「くん」「さん」「ちゃん」を使う、④あだ名で呼ばないの4つの取り組みです。

①あいさつ返しについては、毎朝の登校指導で良くなっていると感じます。②ふわふわ言葉については、各学年で右写真のようなふわふわ言葉が集まっていました。③④はどうだったのでしょうか。

13日の代表委員会で、これらの取り組みの振り返りを行いました。各学年毎に成果と課題を出し合い、共有しました。全体的には、この目標を一人一人が意識して取り組むことができたようです。一方、時間がたつと少しずつ元に戻ってしまったという課題も出ていました。コロナ対策で常にマスクをしていることで、心をつなぐコミュニケーションが難しい状況です。継続的な児童会の取り組みにより、「思いやりあふれるとがみっ子」になってほしいです。

各委員会でも、今年度の児童会目標につながる様々な取り組みが行われています。掲示委員会では、「スマイルインタビュー」と称し、言われてうれしかった言葉をインタビューして、視聴覚室前に掲示しています。どれも、言った子と言われた子の笑顔が思い浮かぶ素敵な言葉でした。ボランティア委員会で行っているペットボトルキャップ集めにも、たくさんの児童が協力していました。パンパンに膨らんだ袋を持って登校する1年生も、たくさんいました。情報委員会では、昼の放送のはじめに音楽を挿入したり、朝の放送で「今日の占い」や「今日は何の日？」を取り入れたりして、より楽しい生活ができるようにする工夫も見られます。



ふれあい委員会が担当する「たてわりタイム」も、やっとスタートすることができました。全校集会や代表委員会など、コロナになってからリモートで行うことも多くなり、その良さもありますが、やはり、直接対面して交流しないと伝わらない部分があることも事実です。このたてわりタイムが、続けられるよう、これからもコロナ感染防止に努めなければなりません。

子どもたちは、よりよい学校生活になるように、コロナでもできることを工夫し「自分から考えて行動」しています。それが、「思いやりあふれる児童会」につながっていくでしょう。



授業研究会スタート！

～市教委委嘱公開研究会に向けて～

10月5日は、4年間の本校の研究の成果を山形市の先生方に見ていただき、一緒に学ぼうという、公開研究発表会の日です。コロナの状況下の対応として、参観していただく先生方の数は限られますが、本校児童の力につながるよう、前向きに取り組んでいるところです。

各学年の研究教科が決まり、校内の授業研究会が始まりました。1年生：国語、2年生：生活科、3年生：総合的な学習、4年生：理科、5年生：算数、6年生：国語です。

6/24 1年1組 国語 「すきなもの、なあに」



はじめに、1つのグループをモデルとして班での話し合いについて学び、いよいよ自分たちの班で話す場面に入りました。

窓際前の班は、よく話すA君と静かなB君、小さな声のCさん、そしてDさんです。はじめはぎこちなかったのですが、A君の質問力でだんだん話題が広がってきました。A君の番になり「ぼくが好きなのは天ぷらです」という話に、Dさんが「どうして」との質問。A君が何を言おうか迷っているときに、それまで一言も話していなかったB君の「カリカリしているから？」といういいアシストが出ました。それぞれの児童が、自分なりに話に参加しようとする姿が見られました。

6/30 2年2組生活科 「生きものはかせ ～わたし・ぼくの大切なダンゴムシ、カタツムリ～」

子どもたちがビオトープで捕まえたダンゴムシとカタツムリ。そのダンゴムシ・カタツムリが元気になるようなおうちをつくらうという学習です。前半グループと後半グループに分かれて、世話している生き物のひみつや世話の工夫を伝え合いました。常に気にして見ていたりえさをあげたりしている子ほど、たくさんのことを伝えたいという思いも強いようでした。その後、きいた話をもとに、もっと素敵なおうちにするためにビオトープに行って、様々なものを探したり試したりしていました。



6/9 5年2組 算数 「直方体や立方体のかさの表し方を考えよう」



学習課題は「直方体と立方体の大きさを比べよう」。子どもたちに渡されたものは、2つの立体の展開図。「大きさ」の違いが、「広さ」の違いなのか、「かさ」の違いなのか、はたまた「重さ」の違いなのか、なかなか子どもたちにとって感覚的に捉えにくいところです。自力解決の時間になると、表面積を計算する児童、何となく縦×横×高さとする児童と様々。縦×横×高さとして答えが出た児童も、その答えの意味することがなかなか説明できない。そんな中、一辺が1cmの立方体をつくって考えていた児童が……。次の時間が楽しみです。

7/13 4年3組 理科 「とじこめた空気や水」

『とじこめた空気をおすと、中の空気はどうなるでしょうか』という学習。まず、一人一人の予想を出し合いました。閉じ込められた空気を10個の○として表し、それを圧したときにその○がどうなるのか図で表していました。それをもとに実験を行い、班でわかったことをまとめていきましたが、班でまとめきれないまま終了となりました。

授業後の話し合いでは、理科で大切にすべき問題解決のプロセス、予想・仮説→観察・実験→結果の整理→結論を明確にすること、特に今回の授業では、結果の整理を全体でしっかり行った後に、「そこから言えること」を子どもたちに考えさせたかったというような意見が出ました。目に見えない事象を図や言葉で表すということの難しさを感じました。

